

枋木県現代俳句協会報

No. 180



第一八〇号

発行所

〒三二七-〇三二五

佐野市吉水駅前一五八 水口方

枋木県現代俳句協会

発行人

中井 洋子

編集人

山野井 朝香

令和七年十二月一日発行

第七十二回俳句研究会

令和七年九月二十六日(金)
佐野城山記念館

爽やか俳句研究会

池澤 光子

第七十二回俳句研究会は、県西支部の方々

にお骨折りいただき、鯉沼第一事業部副部長の進行で始まりました。会場の城山記念館は、佐野城址の一角にあり、周囲の至るところに遺構や石碑、古木や山野草が見られます。参加者の皆さんは、午前中いっぱい、思い思いの場所を秋を探しながら言葉を交わし、吟行を楽しんでおられました。

午後の部は、中井会長の爽やかな開会の挨拶の後、講話へと。講師は「白魚火」の同人会長として、また数々の句会の指導者として

活躍中の中村國司氏です。

○自己(俳歴) 紹介○俳句結社「白魚火」
○俳句に対する取組み○俳句作家正木ゆう子氏、という四つのテーマに基づいて、熱く語って下さいました。

「白魚火」の同人となった際、師の西本一都先生から盃を交わしていただいたこと、「座禅草」が季語として認知されるようになったいきさつなど、初めてお聞きするお話は、どれも興味深いものばかりでした。また、「俳句にタブーはない、心の内を素



直に出す」「俳句は自由でのびのびしているべき」「楽しんでこそ俳句」という氏の美のある言葉は、深く心に沁みました。

大好きな俳句作家である正木ゆう子氏の句をこれからも存分に楽しみたいというお話で
 中身の濃い講話は終わりました。

締めくくりの和田名誉会長の洒脱な謝辞の後、いよいよ句会。幻(?)の白曼珠沙華、秋風、木の実、果ては佐野名物の寿司……等、句材も内容も魅力的な句が出揃い、選句、披露と流れるように進みました。

最後に特別選者の五氏から講評がありました。が、各先生方の鋭い選句眼と句に対する温かな眼差しに聞き入っていました。

続いて、戸田第三事業部長の進行で、通信句会の結果発表と表彰が行われ、俳句研究会



の全ての日程が終了しました。

爽やかな秋の一日を象徴するような楽しく有意義な研究会、ぜひ次回も参加したいと思いつつ帰路につきました。

◇特選賞

和田 浩一 選

東の間のこの世へかざす白日傘

鯉沼桂子

中井 洋子 選

万葉の風呼ぶ白い曼珠沙華

水口圭子

石倉 夏生 選

とどまりて歩いて佳き日本の実落つ

中井洋子

中村 克子 選

百日紅に金剛力士の力瘤

池澤光子

水口 圭子 選

構へなき時の一列秋の鯉

中井洋子

◇最高点句

新涼の歩幅で歩く佐野城跡

中村克子

水音のやがて風音赤とんぼ

戸田富美子

◇その他の作品(順不同)

遠ざかる昭和よ白いまんじゅしゃやげ

和田浩一

どうしても見つからぬ白曼珠沙華

石倉夏生



ゆつくりと坂登りきり秋蝶に

北島洋子

九月尽老木の洞に呼吸音

山野井朝香

寂しさのかけらとちの実落ちており

増山ちさ

まんじゅしゃげ生者は死者に支へられ

小川たか子

向き変へるたび秋光散らす池の鯉

白井正枝

まんじゅしゃげ母の口癖付いて来る

和田璋子

秋の汗ふみきりずし迄早歩き

佐々木輝美

庁舎七階は鳥の目線や秋麗

中田陽子

兵器より茶器が真髓天明は

厚木伸彦

本丸を包囲なしたる曼珠沙華

相田勝子

城跡の角礫展げ曼珠沙華

中村國司

第33回

現代俳句色紙展

繋がる色紙展

令和七年十月二十五日(土)・二十六日(日)
 きららの杜とちぎ蔵の街楽習館ギャラリーI

遊 座 純 子



二日間とも
 あいにくの雨
 になってしま
 いましたが、

恒例の色紙展
 が開催されま
 した。本年度
 は従来とは会
 場が変わり、

とまどいながらも手際よく準備できました。
 色紙三十四点、短冊二十三点、はがき十二
 点、色紙が多く個性ある文字で見応えがあり
 ました。「はがきで一句」は、それぞれ趣向
 を凝らした葉書に句が書かれていました。会
 場に生けられた千日紅や藤袴、百日草が目を
 休めてくれました。

今年の特別コーナーは「須藤火珠男の俳句
 の世界」でした。独自の書体の色紙・短冊と

共に、作者が歩んでこられた俳句人生の来歴
 に心を奪われました。

展示会終了後は、色紙短冊交換の前に、現
 代俳句協会年度作品賞を受賞された、水口圭
 子さんへ薔薇の花束が贈られました。その挨拶
 の中で「句会があり仲間がいてこそ続けら
 れた」と話

されていて
 改めてそれ
 を実感しま

した。会の
 雰囲気にも
 刺激を受け、
 新しい楽し
 みも見つけ
 られた有意
 義な二日間
 でした。



〈染筆出品者〉

和田 浩一、中井 洋子、石倉 夏生、
 速水 峰郎、須藤火珠男、中村 克子、
 水口 圭子、和田 璋子、増山 ちさ、
 北島 洋子、佐々木輝美、戸田富美子、
 神山 姫余、小杉栄美子、遊座 純子、
 橋本 尚子、斎藤 絢子、鯉沼 桂子、
 松本 登子、池澤 光子、白井 正枝、
 山野井朝香

※現代俳句協会で、50代・60代の協
 会員を対象に『蒼年部』が立ち上げ
 られました。本県会員の該当する方
 で、栃木県現代俳句協会『蒼年部』
 として、県内活動をご要望される方
 がおられましたらお知らせください。

◎連絡先 神山姫余

TEL & FAX 〇八二四一八五一七一一三〇
 携帯 〇九〇七二三九五五〇六

令和8年度 総会・新春俳句会・賀詞交歓会のお知らせ 記

- ◎と き 令和8年1月18日(日)
午前10時30分受付 11時開会
- ◎と ころ サンプラザ栃木
(栃木市片柳町2-2-2 TEL0282-23-5711)
- ◎会 費 5,000円(年会費2,000円も承ります)
- ◎作 品 雑詠2句(出席者のみ 投句料500円当日持参)
同封の返信ハガキにご記入ください。
- ◎返信締切 令和7年12月23日(火)必着
- ※特別選者は染筆(1点)を当日ご持参ください。

第二十回 通信句会結果(令和七年度)

― 九月二十六日表彰 ―

◆特選賞

和田 浩一 選

落書きの浮き出る筆筒広島忌

原田利江

中井 洋子 選

戦場の子の眼のひかり黒葡萄

石倉夏生

石倉 夏生 選

頭の中はいつも窮屈春の雲

遊座純子

速水 峰郎 選

春愁のゆゑなく揺らすやじろべえ

橘川芳子

須藤火珠男 選

陽炎は消えたい人を待っている

水口圭子

中村 克子 選

吾が窓は百号の画布ミモザ咲く

高田栄子

大竹 照子 選

美しく老いよと駒鳥囀れり

畠山嘉子

水口 圭子 選

待ちぼうけ日傘まわして地動説

神山姫余

◆最高得点

少年に砂鉄の匂い日の盛り

清水智子



水口 圭子
現代俳句協会年度作品賞を受賞されました。

お知らせ

※第三回役員会は12月18日開催されます。
※第二回役員会は7月17日開催されました。

次号181号の原稿締切りは1月31日です。